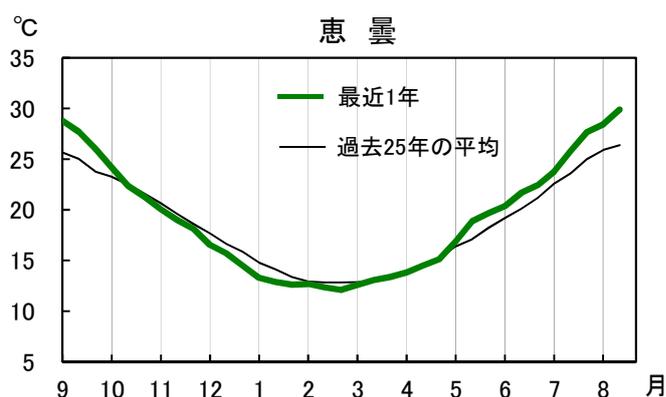
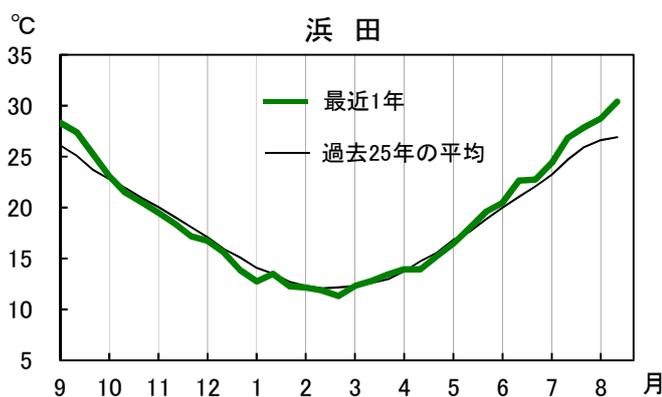




《7～8月の海況》

7月	月平均	平年差	評価
浜田	26.4℃	+1.8℃	かなり高め
恵曇	25.7℃	+1.9℃	かなり高め

沿岸定地水温は、7月は浜田地区、恵曇地区とも「やや高め～はなはだ高め」と高め基調で推移しました。8月は猛暑の影響もあり、両地区とも高めの傾向が続き、中旬時点で浜田地区が「やや高め～かなり高め」、恵曇地区が「かなり高め」で経過しています。



《7月の漁況》

【中型まき網漁業】

県西部（浜田地区）ではマアジ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年を下回りました。この時期主体となるマアジは平年の6割、サバ類は1割となりました。県東部（西郷地区及び浦郷地区）ではマアジ、ブリ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は西郷で平年並み、浦郷で平年をやや上回りました。マアジは浦郷で好調でしたが西郷で平年の7割に留まり、ブリは西郷で平年の約3倍の漁獲量となりました。

【イカ釣漁業】

浜田地区（属地5トン以上）ではケンサキイカ（全体の69%）とスルメイカ（同31%）が主体の漁況で、1隻1航海あたりの漁獲量は272kgで平年を上回りました。魚種別でみるとケンサキイカは平年比95%、スルメイカは平年比91%、漁獲量は平年並みでした。一方、西郷地区（属地5トン以上）ではケンサキイカ主体（全体のほぼ100%）の漁況で、1隻1航海あたりの漁獲量は42kgで平年を下回った。

【バイかご漁業】

石見地区のバイかご漁業における総漁獲量は23トン、1隻1航海当たりの漁獲量は645kgで平年並みの水揚げとなりました。主漁獲対象であるエッチュウバイの漁獲量は20.1トン、1隻1航海当たりの漁獲量は575kgで平年を10%上回る水揚げとなりました。銘柄「大」、「中」主体の水揚げとなっています。

【しいら漬け漁業】

6月から始まった石見地区のしいら漬け漁業はシイラ主体の漁況で、1隻1航海当たりの漁獲量は1.5トンと平年の約2倍となりました。主体となるシイラの漁獲量は平年並み、ヒラマサは平年の3割でしたが、出漁日数が平年の4割だったことから1隻1航海当たりの漁獲量は好調となりました。

【定置網漁業】

石見地区ではマアジ、ケンサキイカ主体の漁況で、1統当りの漁獲量は18.5トンでした。主要魚種であるケンサキイカは好調でしたが、マアジが平年の5割であったため、全統の総漁獲量は平年並みとなりました。出雲地区ではサワラ類、ブリ、ヒラマサ主体の漁況で、1統当りの漁獲量は19.4トンでした。この時期主体となるマアジ、ホソトビウオがそれぞれ平年の2割、4割となったため、全統の総漁獲量は平年を下回りました。隠岐地区ではブリ、マアジ主体の漁況で、1統当りの漁獲量は28.3トンとなりました。この時期主体となるマアジ、ホソトビウオがそれぞれ平年の6割、2割となったため、全統の総漁獲量は平年を下回りました。

【釣・縄】

石見地区ではケンサキイカ、アマダイ、イサキが主に漁獲され、1隻1航海あたりの総漁獲量は17kgで平年並みでした。出雲地区ではケンサキイカ、マダイ、アマダイが主に漁獲され、1隻1航海あたりの総漁獲量は21kgで平年を上回りました。隠岐地区ではケンサキイカ、カサゴ・メバル類、キダイが主に漁獲され、1隻1航海あたりの総漁獲量は20kgで平年を下回りました。全地区で漁獲の主体となったケンサキイカは石見地区（漁獲量は平年の0.7倍）では平年を下回りましたが、出雲地区（同1.2倍）・隠岐地区（同1.1倍）では平年を上回り、前月に続いて漁場の形成が好調のようです。

【平成 25 年 7 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1 隻(統)1航海あたり漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	マアジ	186 トン	35%	47%	6.4 トン	53%	61%	▲
	西郷	マアジ、ブリ	1,721 トン	95%	64%	26 トン	122%	93%	○
	浦郷	マアジ	1,391 トン	91%	104%	29 トン	95%	115%	◎
イカ釣り (5トン以上)	浜田	ケンサキイカ、スルメイカ	30 トン	53%	92%	272kg	192%	223%	◎
	西郷	ケンサキイカ	5 トン	54%	71%	42kg	88%	46%	▲
バイかご	大田管内	エッチュウバイ	23 トン	69%	62%	645kg	97%	103%	○
しいら漬け	和江	シイラ	20 トン	83%	58%	1.7 トン	215%	233%	◎
定置網 (大型)	浜田	ヒラマサ、サワラ類	21 トン	82%	67%	1.9 トン	187%	246%	◎
	美保関	サワラ類、ヒラマサ、ブリ	86 トン	83%	69%	815 kg	81%	68%	▲
	浦郷	マアジ、ブリ、シイラ	31 トン	144%	78%	1.2 トン	150%	83%	○
釣り・縄	仁摩	ケンサキイカ	9 トン	49%	64%	23kg	87%	94%	○
	大社	ケンサキイカ、ヒラマサ、ブリ	3 トン	43%	52%	13kg	85%	87%	▲
	西郷	カサゴ・メバル類、ケンサキイカ、キダイ	5 トン	40%	34%	25kg	107%	87%	▲

平年比：過去 5 年（沖底のみ 10 年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

本年の漁獲量が 0Kg(ほぼ 0Kg)のものは全てを－、前年の漁獲量が 0Kg(ほぼ 0Kg)のものは前年比を－、平年の漁獲量が 0Kg(ほぼ 0Kg)のものは平年比を－とし

【ケンサキイカ情報】

発行日：平成25年8月21日

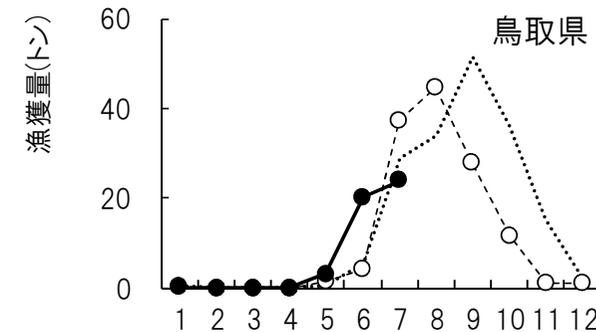
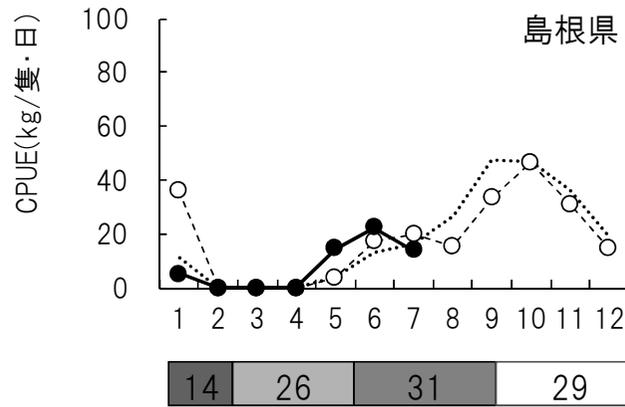
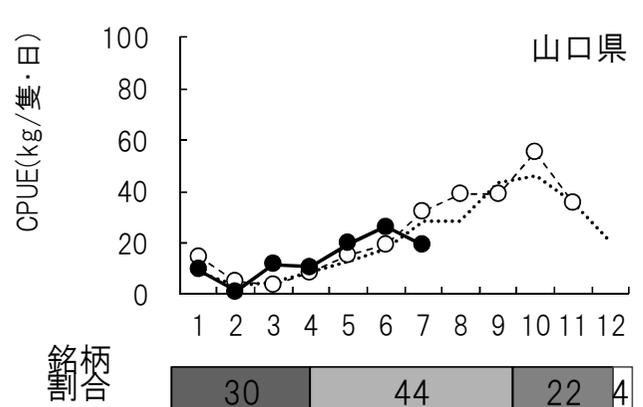
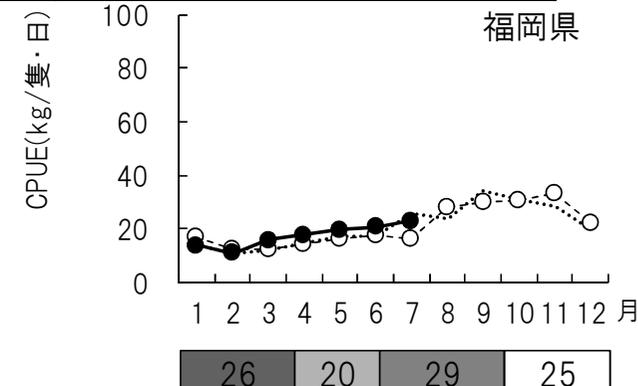
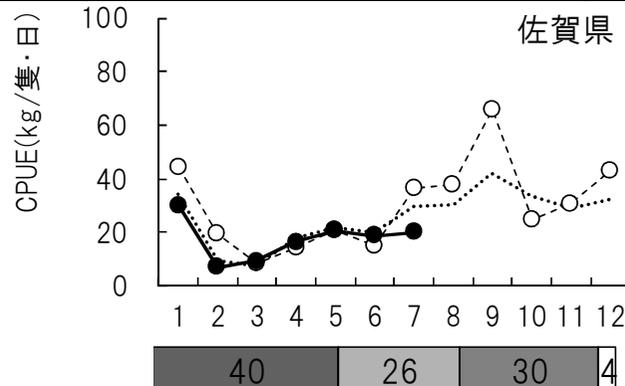
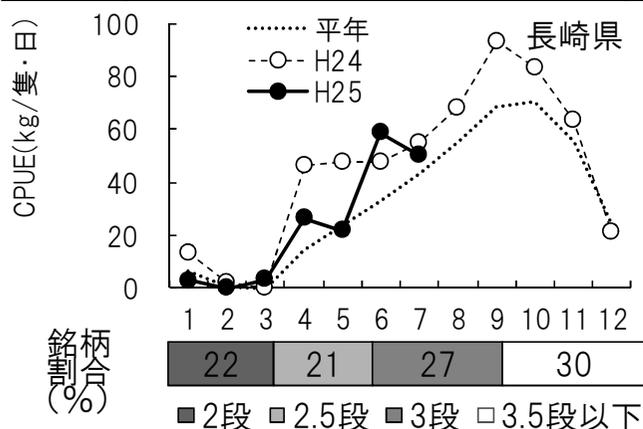
長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ（地方名：マイカ、シロイカ）の情報（各地の漁況と底層水温）です。

I：7月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

長崎県は前年・平年並みでしたが、佐賀県以東は概ね前年・平年を下回っています。各県の状況は以下のとおりです。

長崎県	標本漁協の漁獲量は、前年・平年並みでした（前年比110%、平年比107%）。	佐賀県	標本漁港の漁獲量は前年比42%、平年比48%で、前年・平年を下回りました。	福岡県	代表港の漁獲量は前年比63%、平年比66%で、前年・平年を下回りました。
山口県	代表港の漁獲量は前年・平年を大きく下回りました（前年比31%、平年比35%）。	島根県	主要7港の水揚量は62トンで、前年を下回り、平年並みでした（前年比56%、平年比100%）。	鳥取県	7月の漁獲量は暫定値ですが、昨年を下回り、平年並～平年をやや下回る値となりそうです。



※平年は過去5年(H20～H24)の平均値

II:8月上旬の底層水温

長崎県	五島西沖の底層水温は、16～20℃台でした。	佐賀県	底層水温は、壱岐水道は22.3～26.2℃で 平年並み～甚だ高め、対馬東水道が15.3 ～21.2℃で平年並み～かなり高めでした。	福岡県	沿岸域の水温は、19～27℃台とやや高め ～甚だ高め、沖合域の水温は、16～19℃ 台と平年並み～やや高めとなっています。
山口県	底層水温は9～22℃台で、沿岸域ではや や高め、沖合域では冷水域を除き平年並 みでした。	島根県	陸棚上は、温泉津沖は3～11℃で「平年 並み～やや高め」、高山沖は2～20℃で 水深100m以浅が「平年並み～やや高 め」、100m以深が「やや低め～かなり低 め」でした。	鳥取県	水深100m海域の底層水温は17～18℃ 前後でした。

底層の水温分布図
 大きい数字:水温
 小さい数字:水深

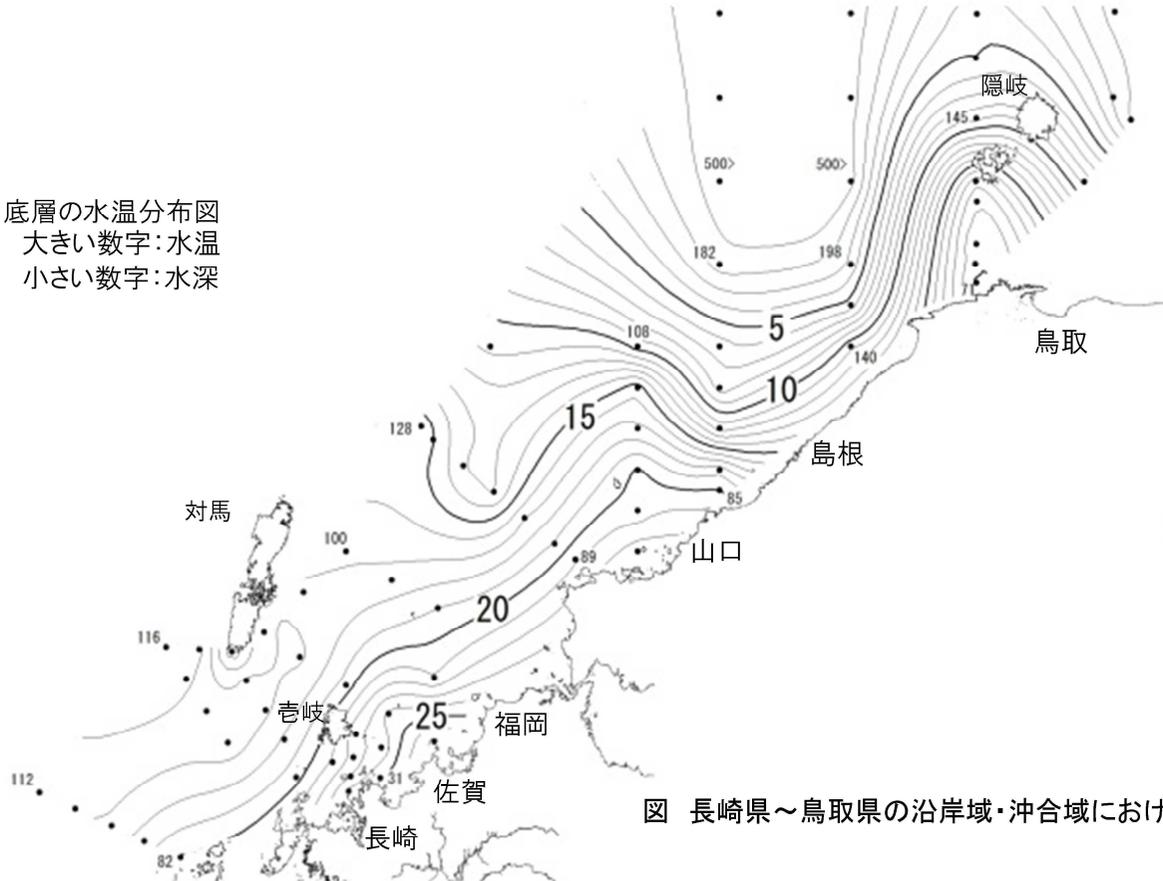


図 長崎県～鳥取県の沿岸域・沖合域における底層の水温分布図